懐かしアルバム ～田畑・野山編～

暮らしの中の農作業

かつては牛馬に鋤(すき)を引かせ、男も女もお年寄りも子どもも一家総出のうえに、ご近所さんも手伝って、田植えや稲刈りの重労働を乗り切っていました。その頃の農作業には、牛や馬もなくてはならない存在で、家族の一員でした。

1-019

牛で耕す風景

鋤（すき）を引く農作業の様子。ゴルフ道から南東を写したもので、竹やぶの手前には音羽川（山科川）。のどかな田園風景ですが、人にも牛にも重労働でした。（昭和19年頃、音羽野田町）

田植えの風景

耕（かすり）の前掛けに姉さんかぶり、タスキに手甲（てこう）、脚絆（きゃはん）姿で田植えをする女性たち。こちらは、岩屋神社に奉納するお米を作る神聖な水田で、現在も区役所の近くにあります。（昭和30年頃、柳辻西浦町）

18-010

萱葺きと稲架の風景

奈良街道沿いの旧家。籾(もみ)を電気乾燥する今となっては懐かしい稲架(はさ)のある風景です。（昭和39年、音羽前田町）

1-025

31-034

脱穀風景

明治末に発明された足踏回転脱穀機は、従来の道具の8倍の能率をあげたとのことです。後ろには安朱の山が見えています。（昭和20年代前半、安朱北屋敷町）

5-003

薬草園での1コマ

日本新薬の薬草畑とそこで働く農家の人。後方には、竹林が見えています。（昭和初期、大宅坂ノ辻町）

山科の竹やぶと筍

山科には、昔からたくさんの竹やぶがありました。現在では都市開発により、そのほとんどが消滅してしまいましたが、山科の竹や筍は質が良く、宮中に献上されていたそうです。

4-196

竹が建物に覆いかぶさり、まるでモンスターのようです。（昭和45年頃、場所不明）

山科は昔から筍の名産地でした。男性が手に持っている道具は筍を掘る特殊なもので、地中に埋まっている筍をテコの原理で掘り出すことができます。「写真は義父です。その季節になると毎朝山へ掘りに上って、家の前に並べて売っていました（林さん）。」（昭和8年、安朱稲荷山町）

31-035

27-002

小山の農地

現在の名神高速道路京都東ICの南東辺りから東を写したものです。デコボコ道を荷車が行き、左には水車が回っています。米搗きや製粉などの作業に水力は重要な動力でした。光の差し具合から朝の光景でしょうか。（昭和30年、小山西御所町）

田植え休憩中

田植え中のひととき。「畑にいるのが一番楽しい。畑は私のいこいの場（林さん）。」この山科の地に生まれ、この土地を愛し、この土地とともに生きてこられた方です。（昭和35年頃、観修寺平田町）

33-003

野つぼ

住宅や建物が並ぶ辺りは渋谷街道筋。山科の都市化初期には、まだまだ水田風景が見られました。あぜ道の左は下肥を貯めておく野つぼ。今では全く見られなくなりました。（昭和34年頃、御陵四丁野町）

1-030

6-012

肥え桶

親子でかい棒に吊るして運んでいるのは、田畑にまく下肥。現在は鶏糞や化学肥料が主となり、かつてのような苦労は見られなくなりました。（昭和30年頃、小野曼陀羅尻町）

4-185

農作物の洗い場

用水路にたたきを作り、周りを建物で囲った農家の共同洗い場。京の町へ振り売りに出かける農家にとって、雨風や雪を凌ぎ、作物の泥を落とす大切な作業場でした。今はポンプですが、当時は湧き水が流れていて冬でも暖かかったそうです。（昭和45年頃、柳辻封シ川町）

山科の農業の営み今昔

山科は天皇家の土地（禁裏御料地）として、宮中に献上する作物などを栽培するところで、良質の作物が採れる田畑が広がっていました。戦後も採れたての野菜や卵などをリヤカーに積んで京の町へ振り売りに行く農家もありました。また勧修寺周辺には農園が点在し、ぶどう狩りや芋掘りなどの行楽地として関西一円から人々が訪れます。

ぶどうも献上

ぶどう園の温室。写っている3人は、農閑期を利用して働きに来ている村の人達のようです。「真ん中に植えてあるのは、すいかか、まくわ瓜です。ぶどうは宮中に献上していました。献上となると、家族の身体検査が厳しく行われ、幼い私はそれが嫌で、お風呂場に隠れていたものです（野崎さん）。」（昭和初期、東野中井ノ上町）

5-005

三条通の振り売り

2-060

京津国道（三条通）九条山付近から瀧上方面を写したもの。自転車の男性の右に、かっぽう着や前掛け姿の女性が振り売りのリヤカーに集まっています。横切る高架は東山ドライブウェー、左は京阪京津線。「山科から九条山の坂を越えるのはとても大変でした。今でも振り売りを続けている方がいるそうです（林さん）。」（昭和33年、椥子奥花鳥町）

現在の営み

名神高速道路の両側に広がる観光農園。新鮮な野菜やぶどう（8～10月）が買えます。（平成17年、勧修寺南大日町）